

## 学級づくり・学校づくりと体育



制野俊弘（和光大学・宮城支部）

### 学級づくりと体育

「学級のまとまりがなく授業がうまくいかない」「学校づくりの課題が多く、やりたいことがやれない」…毎年、こんな悩みがよく聞かれます。

特に、担任教師たちの最大の課題は「学級づくり」＝「学級集団づくり」です。その意味について、吉本均は次のように説明しています。

「あるがままの学級内にひそむ子どもどうしの対立・矛盾を顕在化させ、当面の課題に子どもたちを取り組ませるなかで彼らを民主的・自治的集団として確立させること」（傍線筆者）

これは1981年の解説<sup>1)</sup>ですが、この一文を読んだだけで、今日の教育現場の困難さとのギャップを感じずにはられません。

まずは、「あるがままの…対立・矛盾を顕在化させ」という一文に若い教師たちは、立ちすくむはずです。現在は、対立・矛盾が起らないように指導することが求められているからです。いじめがあれば親から訴えられ、子ども同士のケンカはそのまま親同士のトラブルへ発展します。管理職からは「学級経営がうまくい

っていないのではないか」と訝られ、さらに人事考課が絡んできます。教室での実践と教員評価が結びつくため、「顕在化」は逆の「隠蔽化」へと導かれます。

二つ目は、「民主的・自治的集団」という文言です。戦前・戦中の暗黒時代を経験した教師たちは「民主」や「自治」という言葉に希望を見出しました。しかし、現在は学校の「底」が抜け、これらの理念が掬えなくなっています。かつては学級に問題が起これば、「学級会」を開いて課題を全員で共有し、自主的に解決していました。固有名詞による議論が行われ、子どもたちによる自主管理が行われました。教師は仕掛け役に徹していました。今は、学校スタンダードやゼロトレによる管理が徹底されています。

これが学校づくりの困難さの一因です。一つの学級だけを自治的な集団づくりをしようとしても、学校のルール内での取り組みに限定されてしまうのです。複数学級の場合は、「足並み」（＝横並び）が重視され、教師の自由が奪われます。まるで江戸時代の「五人組」です。

そして、このことが体育の授業を管理的にし、創造的な授業を妨げています。細切れ単元、進度の徹底管理、指導のマニュアル化等々、子どもを置き去りにし

た授業になっていきます。

「先生、もっとやらないの？」

「ごめんね。また今度ね…」

こんな会話がそちこちで交わされているのです。

子ども主体の学級・学校づくりへ

同志会は、「すべての子どもに運動文化の喜びを」というテーマを掲げてきました（全体講座の「系統性研究」はその典型です）。同時に、学級や学校での民主的集団づくりを、体育の授業の欠かせない条件としてきました。すべての子どもを運動文化の主体者とするための集団の在り方と、学級・学校づくりとの内的連関を問うてきたのです。

この連関の一つの道標が、「学級文化」の問題です。管理と監視に基づく強制的文化か、自主管理と自己決定に基づく共生の文化か、はたまた暴力や圧政に基づく強要の文化か、共同や協同を基礎とした教養の文化か。「学級文化」は学級づくりの「命」です。学級の文化的風土の醸成こそ、学年・学校、そして体育の授業を民主的・自治的にする基底的条件になります（これはイラストで紹介します）。

二つ目は、「グループ学習」です。同志会は、これを「異質協同・共同の小集団学習」と位置づけ、すべての子どもが「わかる」「できる」を交流し、両者に共通する確かな学力を保障しようとしてきました<sup>2)</sup>。これは広い意味で「社会参加の学力」保障でした。同志会のグループ学習は、単なる形態論や方法論ではなく、「文

化変革の主体形成」や「社会的統治能力の土台作り」とされてきました。このグループ学習と学級づくりの関係について、実践を紹介します。

最後に、教科外体育、特に行事との関連です。民主的な学校づくりを模索する場合、その試金石となるのが行事です。同志会が生活教育・体育で追究したのが行事であり、学校の民主化の度合いは、この行事をどう創るかに典型的に現れます。例えば、新しいコンセプトを取り入れようとする時、どれくらいの仲間がいればそれは実現可能か、管理職や地域の理解をどう広げていくか、さらに行事と生活との関連をどう結び付けていくかは、極めて大きな課題です。神谷は、「教師が、運動会の指導と生活の接点をどこに見出すのかによって、実践の有り様は変わってくる」<sup>3)</sup>と述べていますが、これは一人の教師のみならず、教師集団全体の力量に関わることです。子どもを出発点に議論を展開することができるどうか—学級づくりの重要課題です。

今回は、班日記、学級通信、親の子育て日記、その他学級づくりに関するお楽しみグッズを用意しました。

〔引用・参考文献〕

- 1) 吉本均「教授学重要用語 300 の基礎知識」1981年 明治図書 p.270
- 2) 学校体育研究同志会「運動文化論入門」2007年 p.16
- 3) 神谷拓「学校の運動会は何を経験する場なのか」体育科教育 2017年5月号 p.24